

特集 大雪と気象 【インタビュー-3】

防雪対応—北海道開発局の取り組み

雪害を抑える情報の共有と提供 道路防災連絡協議会

甚大な被害をもたらす近年の雪害は、一つの機関、一つの地域だけでは対応が困難となっている。多くの関係機関、担当部署の協働体制のもと、どのような連携が図られているのか。現状の課題や展望などを伺った。



北海道開発局札幌開発建設部 道路整備保全課
課長 菊地 康氏

道路防災連絡協議会によるパートナーシップ

北海道開発局は現在、国道の道路管理者として国道除雪に当たっており、担当する国道の延長は6620km。全道149カ所の除雪基地に配置した1028台の除雪機械によって、日夜除雪が行われている。このように開発局は自ら除雪を行うとともに、道路を管轄する機関として、道、市町村、警察、消防や道路利用者など道路に関わる関係機関との連絡調整を行う役割がある。

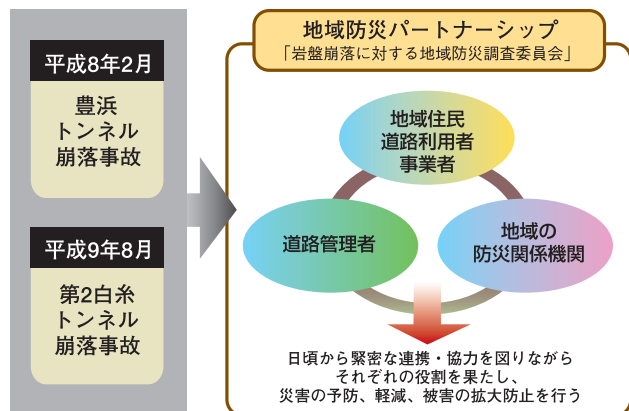
開発局が取りまとめを行い、関係機関の連絡調整の場となっているのが「道路防災連絡協議会」だ。

同協議会は平成8年に起きた国道229号古平町豊浜トンネル事故、翌9年に起きた国道229号島牧村第2白糸トンネルの崩落事故という連続して発生した2つの大規模岩盤崩落を受けて始まったもの。この事故を契機として平成9年12月に設置された「岩盤崩落に対

する地域防災調査委員会」は、平時から地域住民と防災関係機関が一体となった関係づくりが不可欠として「地域防災パートナーシップ」の概念を提唱した。これを受けて各開発建設部では防災関係機関等による連携組織として同協議会を設置した。

現在全道に12の協議会が設置されており、札幌開発建設部に設置されているのは「空知地方道路防災連絡協議会」と「石狩地方道路防災連絡協議会」の2つである。

このように国道の大規模な岩盤崩落事故を契機に発足した道路防災連絡協議会が、雪害対策に大きな役割を果たすようになったのは、平成23年度の岩見沢豪雪がひとつの契機であったという。



▲地域防災パートナーシップイメージ図



▲空知地方道路防災連絡協議会

「道路防災連絡協議会」は各開発建設部に設置され、現在12の協議会が設置されている。(下表：設立年月順に掲載)

構成機関 北海道、市町村、警察、消防組合、商工会議所、観光協会、バス協会、ハイヤー協会、トラック協会、気象台、NTT、北海道電力、JR 等

名 称	開発建設部
後志地方 河川・道路防災連絡協議会	小樽
渡島・檜山地方 道路防災連絡協議会	函館
網走地方 道路防災連絡協議会	網走
十勝地方 道路防災連絡協議会	帯広
日高地方 道路防災連絡協議会	室蘭
根釧地方 道路防災連絡協議会	釧路
留萌地方 道路防災連絡協議会	留萌
上川地方 道路防災連絡協議会	旭川
胆振地方 道路防災連絡協議会	室蘭
空知地方 道路防災連絡協議会	札幌
石狩地方 道路防災連絡協議会	札幌
宗谷地方 道路防災連絡協議会	稚内

▲道路防災連絡協議会設立状況



▲石狩地方道路防災連絡協議会

■ 平成23年度岩見沢豪雪への対応

平成23年12月12日、岩見沢市に37cmの降雪があり、12月中旬の積雪深としては昭和49年以来37年ぶりに1mを超えた。15日、開発局札幌開発建設部・岩見沢道事務所は国道12号、234号で運搬排雪作業を開始した。12月の運搬排雪としては平成17年の大雪以来6年ぶりであった。この時から、岩見沢市と岩見沢道事務所との間で雪捨て場の相互利用が開始されている。

12月16日にも降雪量40cmの大雪が降り、岩見沢市は「岩見沢市豪雪対策本部」を設置。これを契機に岩見沢市と岩見沢道事務所との間で逐次情報共有が始まった。これを受けて岩見沢市で雪捨て場の不足が明らかになると開発局は緊急対応として同局が管理する幾春別川河川敷を提供するなどの支援を行った。

年が明けて1月12日、降雪量34cmの大雪があり、1月16日には平年値の2.6倍、記録的な積雪深194cmとなった。岩見沢道事務所は北海道の基幹国道12号線の交通確保のため、札幌開発建設部の隣接事務所から除雪機械を増強し、昼夜を徹して緊急除雪を行い、17日朝までに4車線を確保した。

一方、札幌開発建設部は「雪対策連絡会議」を開催し、排雪スケジュールの調整や情報共有を図ると共に、岩見沢市と美唄市に「リエゾン」を派遣した。平成23年豪雪でのリエゾン派遣は、北海道で同制度が活用された最初の事例であった。

■ 災害時に自治体を支援するリエゾン

「リエゾン」は、死者68人、負傷者4805人を出した平成16年の新潟県中越大地震が契機となっている。平成23年に東日本大震災が起こるまで、阪神淡路大震災以降の最も大きな地震であったこの地震では、山間部に被害が集中し、各地で土砂崩れや地滑りが発生し、道路が寸断された。なかでも羽黒山の麓の山村、新潟県山古志村（現長岡市）は、陸路はすべて遮断されて完全に陸の孤島となり、数日後に大雨の発生が予測されるなか、村長はヘリコプターによる住民避難を決断。人口2167人の住民全員の避難が断行された。



▲石狩市役所会議室にて情報交換を行うリエゾン派遣者



▲札幌建設管理部にて情報収集・報告を行うリエゾン派遣者

これまで国の自治体への大規模災害時の対応は、自治体からの要請を受けて始まる「待ちの体制」であったが、山古志村のように小規模で職員数も限られた自治体では目先の事象への対応が精一杯となり、国への支援を要請するゆとりもないことがある。

このため「リエゾン」は、国の職員が自治体からの要請を待たずに、積極的に現地に出向き支援に当たる制度として創設され、平成20年の岩手・宮城内陸地震で初めて活用された。平成23年の東日本大震災では、国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）と並んで、自治体の復興支援に大きく貢献した。

平成23年度の岩見沢豪雪では、空知総合振興局、札幌建設管理部、岩見沢市、三笠市に5名のリエゾンが派遣され、除雪に要するダンプトラックの確保、国道と交差する市道接続部の除雪などの支援が行われた。

1月19日には、開発局長が岩見沢市長を訪問し、現地打合せにより連携体制を再確認。翌20日に「冬期道路維持管理会議」が札幌開発建設部で開催され、情報共有が図られた。

■ 雪害に対する危機意識の喚起

平成23年度の岩見沢豪雪によって、雪害対応における地域パートナーシップの重要性が再確認された。札幌開発建設部では、道路防災連絡協議会の中に設置した豪雪ワーキンググループの中で、開発局、周辺市町村、北海道、NEXCO東日本、警察署、消防署にバス協会、トラック協会の民間道路利用者を加えた協議が進められた。その成果として、雪たい積場などを防災マップに記載するなど、各地域の除雪体制の情報共有を

図ったほか、連絡網の構築、防災ケーススタディの実施などが行われ、パートナーシップの深化が図られた。



▲スタック車両救出状況
(平成25年2月7日撮影)



▲車両運転者の安否確認
(平成25年2月7日撮影)

平成24年度は札幌市や石狩市が豪雪に見舞われたが、札幌開発建設部では、道路防災連絡協議会の協議を踏まえ、札幌建設



▲月形町へのロータリー除雪車引き渡し

管理部、江別市、石狩市にリエゾン6名を派遣するほか、協力業者に呼びかけて、除雪ロータリーが不足した月形町への支援を行うなどの取り組みを実施した。

また豪雪による道路状況を把握しないドライバーが地ふびきで立ち往生するなどの事態が多数発生ことから、情報提供の重要性が再確認された。開発局では、インターネットで国道・道道の通行止め情報や、峠の画像、気象情報を提供しているほか、事前登録をした利用者へ通行止め発生時に携帯電話へ自動メール配信する情報提供などの情報サービスを行っている。



▲一般国道274号 長沼町付近でのスタック状況
(平成20年2月24日撮影)

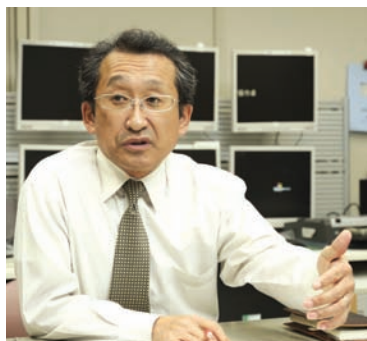
なかでもコンビニエンスストアやガソリンスタンドなど豪雪時にドライバーが情報を求めて立ち寄るポイントに、ファックスの一斉配信によって冬期の道路気象情報や通行止め情報、運搬排雪情報等を迅速に提供する「iFAX」の有用性が確かめられ、これらの充実が図られることとなった。



▲iFAXによる国道連絡所への情報提供

札幌開発建設部で雪対策連絡会議を担当する道路整備保全課の菊地康課長は、現状の課題と展望について次のように語った。「豪雪での対応では、少しの判断の遅れ、対応の遅れによって著しい渋滞を招いてしまうことがあります。大雪や暴風雪等の気象警報が発令されると同時に役所に詰めて事象発生への備えを行う

とともに、平時から危機意識を共有することが大切だと考えています。平成23年度の岩見沢豪雪で見られたように、雪害は自衛隊が出動するほどの激甚な災害になりかねないものです。しかし、地震や台風などに比べ、相対的な危機意識は低いように感じます。雪対策連絡会議を通じて関係機関で平時から危機意識を共有するとともに、住民のみならずにも雪害に対して危機意識を持ってもらうように広報活動等を通して働きかけたいと思います」。



北海道地区 道路情報

このサイトでは、北海道の国道、道道、及び北海道開発局が管理する高速道路において、現在実施している通行止情報、異常気象・災害工事等による通行止を提供しています。

道路の通行止 カメラ画像 異常気象時通行規制 現在の積雪 メール配信サービス リンク ご利用に際して その他

システムメンテナンスのお知らせ (予告)
 ■ システムメンテナンスのため、11月29日(金)17時～12月2日(月)10時は、全ての情報を休止させていただきます。
 ■ なお、上記期間中の規制情報につきましては、[財団法人日本道路交通情報センター](http://www.jtrc.go.jp/)(050-3369-6601)にお問い合わせいただけますようお願いいたします。

国道(開発局管理)通行止情報 道道通行止情報 12時55分更新 気象注意報・警報 12時55分更新

11/26 22:00～11/27 07:00 国道231号 石狩市浜益区～石狩市浜益区 通行止(工事)
 11/26 20:00～11/27 06:00 国道235号 苫小牧市～苫小牧市 通行止(工事)

11/26 10:38 渡島西部 【発表】暴風警報 【継続】波浪警報
 11/26 10:38 樺山北部 【発表】暴風警報 【継続】波浪警報
 11/26 10:38 樺山南部 【発表】暴風警報 【継続】波浪警報

道路通行止実施箇所 ▼地域を選択して下さい。 ▼都市を選択して下さい。 12時55分更新 道路通行止情報一覧 主要時画像 12時55分更新

北海道全域

道北 道央 道東 十勝 太平洋

▲インターネットで国道・道道の通行止め情報や峠の画像、気象情報を提供する「北海道地区 道路情報」(北海道開発局)

<http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp>

中山峠、日勝峠、石北峠など、道内の主要な峠の情報を随時更新しており、天候の変化などを画像で細かく確認することができる。同サイトには北海道全域にわたる「現在の積雪」も掲載しており、運転の参考情報としても役立つことができる。また、「通行止情報メール配信サービス」のサービスを行っており、携帯電話のメールアドレスをあらかじめ登録すると、異常気象や災害などの突発的な事象を原因に、国道、及び北海道開発局が管理する高速道路の通行止情報が電子メールで通知される。*詳しくは、同サイト「メール配信サービス」のページをご参照ください。